

今日のトピック インドの金融政策(2016年6月)

政策金利は据え置き。ただし金融緩和姿勢は継続。

ポイント1 政策金利は据え置き 金融緩和姿勢は継続

- インド準備銀行（RBI、中央銀行）は7日、政策金利(レポ金利)を6.50%に据え置きました。
- 前回の金融決定会合（4月5日）で発表された各種金融緩和政策は、銀行貸出増加に好影響を与えていると見られます。
- RBIの緩和姿勢の背景には、例年を上回るモンスーンの降雨予想があります。食品価格の低下を通じ、インフレ低下が期待されます。

【RBIの金融緩和政策（2016年4月5日発表）】

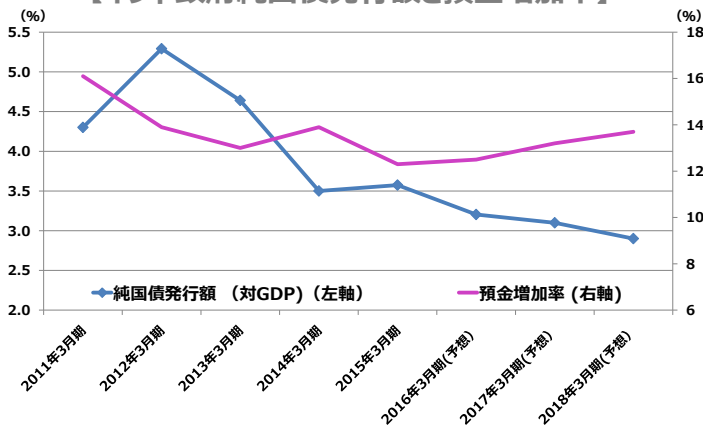
No	政策	変化	備考
1	MCLR（貸出金利計算式）の導入	(注1)	貸出金利算定のルールを定めることにより、透明性が向上するとともに、政策金利の引下げが市場金利に反映され易くなる
2	金利コリダーのタイト化	±50bp(←±100bp)	銀行間金利の変動性（ボラティリティ）を抑制することで、政策金利の引下げが市場金利に反映され易くなる
	リバース・レポ金利	6.00%(←5.75%)	
	限界貸出金利(MSF)	7.00%(←7.75%)	
3	法定流動性比率(SLR)の引下げ	21.25%(←21.50%)	国債よりも利回りの高い貸出に資金が回りやすくなり、銀行の収益改善や貸出金利の低下が期待できる
4	預金準備率(CRR)の閾値の引下げ	90%(←95%)	銀行の日々の資金繰りに余裕が出来るため、需給改善から市場金利は低下しやすくなる

(注1) RBIは2016年4月の金融政策決定会合後のレポートの中で、MCLRによる貸出金利引下げの効果を25bpと推計している。
(出所) RBIなどの公開資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 インド国債の需給タイト化 預金増加と共に国債投資も増加

- RBIが発表した約1,500億米ドルの買いオペ（RBIが市場から国債を買い取り資金を供給）によりインド国債が市場から吸い上げられています。一方、高い実質金利（金利とインフレの差）により銀行預金が増加し、結果として銀行による国債投資が増加しています。
- 一方、インドの財政健全化が進んでおり、国債依存度が低下しています。以上より、インド国債の需給はタイト化しそうです。

【インド政府純国債発行額と預金増加率】



(注) 1. データ期間は、2011年3月期から2018年3月期。純国債発行額の2016年3月期(予想)は、政府予算。その他の予想値は全てコック・マセンドラ・アセットマネジメントの予想値。
2. 純国債発行額は、政府の国債発行額から国債償還額を差し引いた金額。
(出所) RBIのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 RBIの金融緩和継続と良好なモンスーンでインド市場は堅調に

- RBIの緩和政策継続により、好調な民間銀行を中心に個人や企業への低利な貸出が増加し、個人消費や企業業績にプラスに働きます。中でも企業の資金調達コスト低下は利益増加につながり、インド株式市場には好材料となります。
- モンスーン開始直前のインド気象庁とスカイメット社の降雨予報は、+6%と+9%と前回予報(今年4月)に続いて例年を上回りました。農作物の供給増加によるインフレ低下期待から、RBIの政策金利引下げ余地が高まり、インド債券市場には好材料となります。

ここも チェック!

2016年 5月 27日 最近の指標から見るインド経済（2016年5月）（インド）
2016年 4月 26日 国会で「破産法」成立か？（インド）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。